

日本区域麻酔学会第12回学術集会 スイーツセミナー2

Maruishi
Pharmaceutical
Co., Ltd.
信 頼 と 合 意

「脳科学」×「区域麻酔」の「融合」
～脳構造・機能から考える最適な痛み治療戦略～

日時

2025年4月19日（土）
14:20～15:20（60分）

会場

第3会場
ソニックシティホール 4F 国際会議室
〒330-8669 さいたま市大宮区桜木町1-7-5

- 整理券制ではございません
- 現地開催のみ

「区域麻酔スキル習得から
マスタリー（熟達）に至る脳の適応性」

座長

天谷 文昌 先生

京都府立医科大学 医学研究科 麻酔科学教室 教授

演者

荻野 祐一 先生

香川大学医学部 麻酔科学講座 教授

共催：日本区域麻酔学会第12回学術集会／丸石製薬株式会社



日本区域麻酔学会第12回学術集会 スイーツセミナー2

Maruishi
Pharmaceutical
Co., Ltd.

信 頼 と 合 意

「区域麻酔スキル習得から マスタリー（熟達）に至る脳の適応性」

区域麻酔のハンズオンセミナーでは、解剖学をもとに局所麻酔薬の拡がりをイメージし、モデルにエコープローブを当てて運針をイメージするトレーニング（練習）を繰り返す。このような一連の運動は系統運動技能（スキル）として、我々受講者は練習を通じて習得してゆき、果てはセミナー指導者（トレーナー）のように、鮮やかなsonoanatomyを出せるようプローブを操り、滑らかな運針が出来ることを目指して練習を積む。その習熟過程において、脳ではどのような変化が起きているのか。

今日・明日のハンズオン講習で練習した手技スキルは、どのように記憶され再生（実行）されるのか。また、いざ本番、実際の患者さんを相手にしたときに「実力以上」のブロックが出来てしまうことがあるのはなぜか。その問いに対する回答となる脳活動、脳部位、神経活動から生活様式に至るまで、脳科学研究（Ogino, Kawamichi et al. 2021）をベースとしてお話しする。

本研究の対象は、系統運動技能（スキル）の熟達者（マスタリー）であり、本番の試合で観客を魅了するパフォーマンスを繰り出すトップアスリートであった。しかしながら、トップアスリートと我々は同じ脳と身体の仕組みを持っているので、熟達者（マスタリー）における脳の適応性を知れば、明快にマスタリーまでの脳科学的な理解が進み、ハンズオンセミナーのみならず普段の生活にまで、誰にでも応用が利く知識となろう。

荻野 祐一 先生

香川大学医学部 麻酔科学講座 教授